



保阪正康氏、推薦!

中国を知る最良の方法とは何か？
それは中国特有の歴史構造を
読み解くことだ。
本書はまさにその
最適な書である。

東洋史研究の第一人者が

明快に語る

隣国の本当の姿

I

「中国」のはじまり

— 古代から現代まで受け継がれるものとは

第1章 なぜ「一つの中国」をめざすのか

第2章 「皇帝」はどのようにして生まれたのか

第3章 儒教抜きには中国史は語れない

II

交わる胡漢、変わる王朝、動く社会

— 遊牧民の台頭から皇帝独裁へ

第4章 中国史を大きく動かした遊牧民

第5章 唐宋変革による大転換

中国史最大のターニングポイント「唐宋変革」

江南開発とそれにとまなう人口の増加

エネルギー革命がもたらしたものの

経済大国としての宋

貨幣経済が商業の発展を促した

新たな都市の誕生

ニーダム・パラドックスの問題点

第6章 「士」と「庶」の二元構造

中国の賄賂は必要悪

中国には、合法、非合法、善悪の境界がない

III

現代中国はどのようにして生まれたのか

— 歴史を知らば、いまがわかる

第7章 現代中国をつくり上げた明と清

中国人に「国民」意識をもたらした梁啓超

辛亥革命とは何か

革命と五族共和

共和制をめざしつつも袁世凱の独裁と混乱に

第9章 「共産主義国家」としての中国

変わらない中国社会

「一つの中国」に帰結

儒教は中国人にとって歴史そのものである

中国はなぜ共産主義国家になったのか

共産党政権で自由経済が成立するロジック

中国人は国ではなく、コミュニティに帰属している

中国とうまくつきあっていくためのヒント

中国の「正史」とは儒教的な正しさを示すために書かれたもの
儒教は「宗教」なのか

中国に「宗教の時代」を生み出した寒冷化

仏教を前提にして起きた儒教ルネサンス

朱子学は「エリート」のエリートによる、「エリートのための学術」

「近代思惟」としての陽明学の誕生と挫折
儒教は中国の歴史と切っても切り離せない関係にある